**■専門部会からの報告**

**資料４**

**令和６年度　子ども支援部会　報告書**

|  |
| --- |
| **第１回子ども支援部会** |
| 　日時：令和６年５月２０日（月）　午後１時３０分 |
| 　会場：品川介護福祉専門学校５階　特別講習室 |
| 　概要：１　開会のあいさつ・出席者紹介 |
| 　　　　２　品川区地域自立支援協議会および子ども支援部会について |
| 　　　　　　事務局から「品川区地域自立支援協議会」および「子ども支援部会」の設置目的、体系および開催スケジュールを説明した。 |
| 　　　　３　テーマ検討について |
| 障害児福祉計画に含まれている「福祉・保健・教育等と連携強化し、きめ細やかな支援を行う」の内容について議論を行う。 |
| 　　　　　 （１）連携を行うにあたって前提となる、所属する事業内容や役割について各出席者から説明を行った。（２）２事例について連携状況を確認　　①ネグレクト対応に関する事例　　（概要）午前３時～午後３時で就労している父親が特別支援学校へ通学するこどもを家で一人にさせている。てんかんの持病があり、在宅時に発作で転倒したときに負った思われる受傷等もあり。父親は自宅で問題なく過ごせているとの認識。　　　　　　　　（対応）相談支援、通所事業所、特別支援学校、子ども家庭支援センター、障害者支援課で連携。支援会議を開くなど情報共有しながら対応を行った。４月に区外へ転居したため対応は終了。　　②支援機関の引継ぎに関する事例　　（概要）４子と両親の６人家族。上３子が療育を利用。　　　　　　　一番下の子は１歳。上２子が保護者の判断で療育から保育園へ移行し、３子の保育所等訪問支援を開始。両親の発達の遅れに対する認識の難しさあり。　　　　　　　　（対応）保育園を中心にそれぞれの機関が関わりを持つ。保護者がどこにも相談なく療育を辞めて保育園入園を決め、４子共に保育園に在籍となったが、保育所等訪問支援で相談支援が関わりを継続していることもあり現状については把握することはできている。これまで４子に関わる関係機関全体で連携する機会がない状況であったため、療育から保育園に移行した際に、どこまで情報が保育園に伝わっていたのか確認があった。 |
| 　　　　　　　（３）確認できたこと、課題等について　　　　　　　　　①関係機関の連携がとれ、情報共有できていれば対応がとりやすい。②相談支援事業所によって、関係機関との関わる密度に違いがある。③保護者より情報共有をしてほしくない旨の話があった　際の対応方法　　　　　　　　　　④複数の機関が連携する際にどこが窓口となるか |
| 　　　　　　　 |
| 　　　　４　その他・次回日程（予定） |
| 　　　　　　・次回は９月を予定。 |
| 　　　　　　・次回テーマについて　　　　　　　引き続き事例をもとに連携の在り方について議論を行う。 |
| 　出席：部会長　品川区旗の台障害児者相談支援センター施設長　　　　部会員　品川児童学園１名相談支援９事業所１３名（２事業所２名欠席）　　　　　　　　保健センター３センター３名　　　　　　　　子ども家庭支援センター１名　　　　　　　　保育施設運営課１名　　　　　　　　教育総合支援センター３名（１名欠席）　　出席者２２名 |